

資料編

2～7は、今後作成予定

- 1 本市の状況（詳細）
- 2 計画策定の流れ
- 3 計画策定体制
- 4 平塚市総合計画審議会
- 5 平塚市総合計画策定委員会等
- 6 市民参加
- 7 用語解説



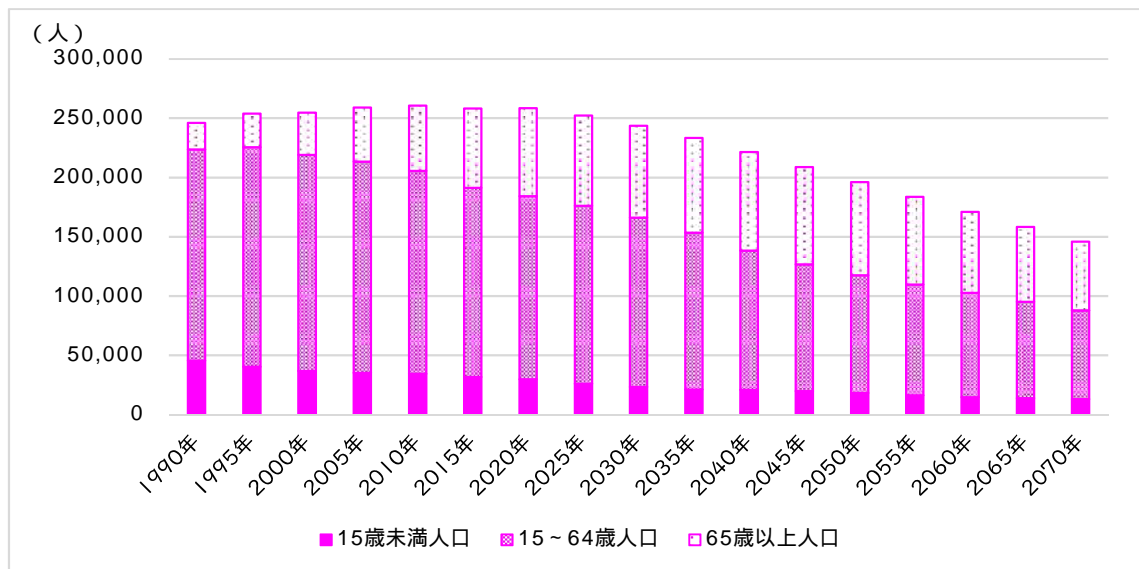
1 本市の状況（詳細）

（1）人口の推移と見通し

- ・本市の総人口は、2度のベビーブームや産業の発展等に伴う転入により増加を続けてきましたが、2010年11月の26万863人をピークに減少傾向に転じています。
- ・年齢3区分別の推移をみると、年少人口（15歳未満の人口）は、緩やかに減少を続け、生産年齢人口（15歳から64歳までの人口）は、1995年をピークに減少傾向に転じています。
- ・老年人口（65歳以上の人口）は、2002年に年少人口を上回りました。
- ・人口の動態をみると、近年、転入超過による社会増が続いている一方、出生数の減少及び死亡数の増加が続いており、今後、更なる自然減が見込まれます。
- ・本市の独自推計によると、今後、より自然減が大きくなることから、加速度的に人口減少が進み、本計画の目標年次である2031年には約24万2千人、2050年には約19万6千人にまで減少し、2070年には約14万6千人（2023年比で約44%減）になると見込まれます。

本市の人口の推移と今後の見通し

国立社会保障・人口問題研究所の推計（2023年中に公表予定）を踏まえ、
修正要否を検討予定



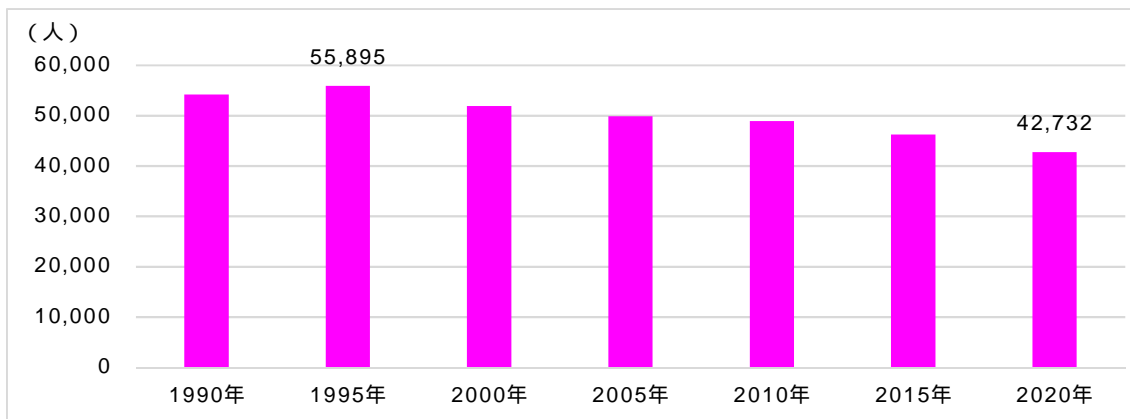
【備考】総務省「国勢調査」、本市独自推計を基に作成

(2) 子育て(少子化)

ア 女性人口、少子化指標

- ・本市の女性人口は、1995年をピークに減少傾向にあります。

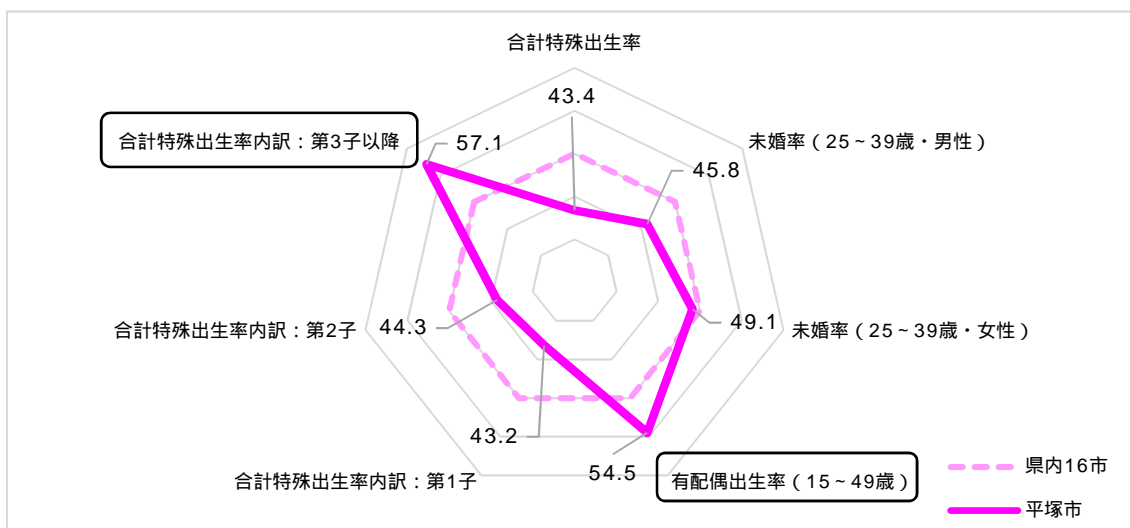
本市の女性人口(20歳から49歳まで)の推移



【備考】総務省「国勢調査」を基に作成

- ・本市の第3子出生率及び有配偶出生率は、県内16市平均と比較して高くなっています。

少子化に係る指標の県内16市(平均値=50)との比較(2020年)

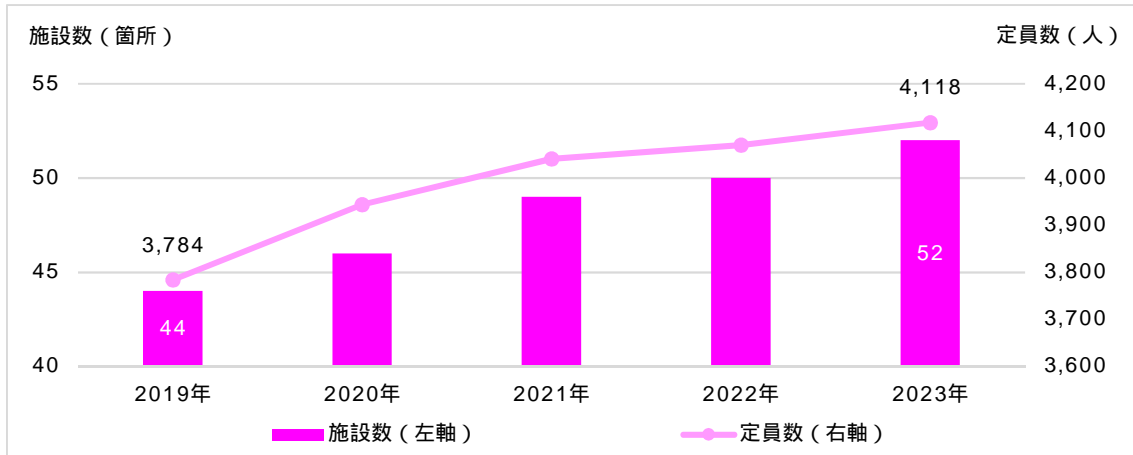


【備考】内閣府「地域少子化・働き方指標」を基に作成

イ 保育所等の施設数・定員数、入所待機児童数・入所保留児童数

- ・本市の保育所等の施設数及び定員数は、増加傾向にあります。

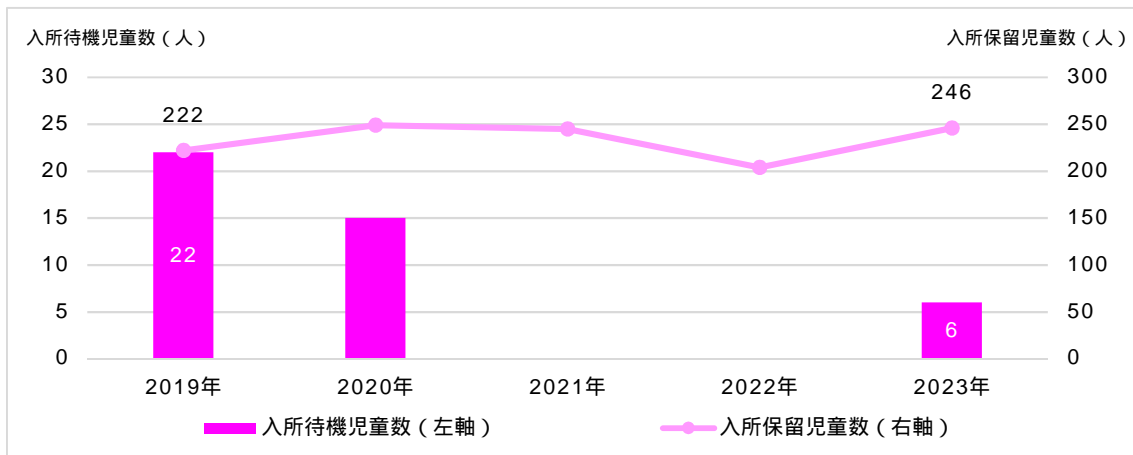
本市の保育所等の施設数・定員数の推移



【備考】平塚市保育課資料を基に作成

- ・入所待機児童数は、直近2年(2021年、2022年)の0人から一転して6人となり、入所保留児童数は、微増傾向にあります。

本市の入所待機児童数・入所保留児童数の推移



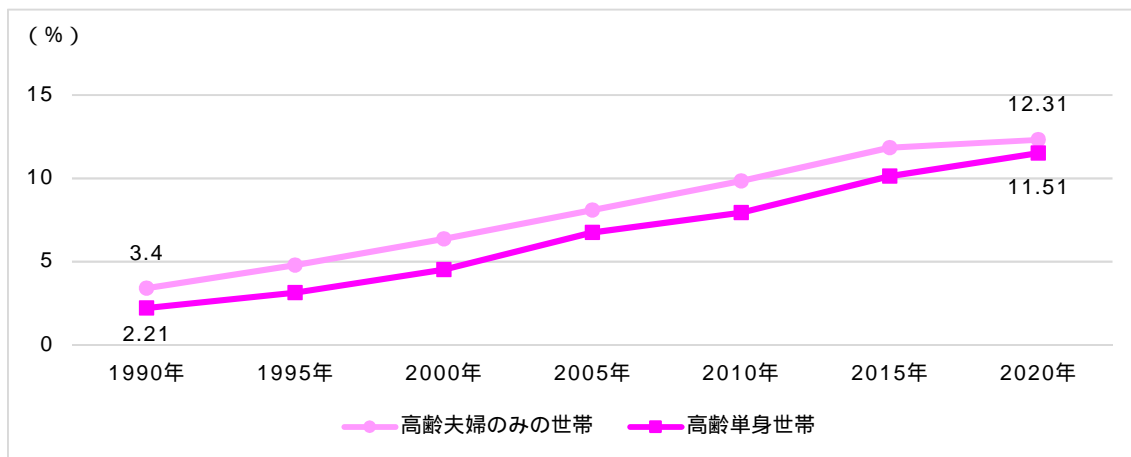
【備考】平塚市保育課資料を基に作成

(3) 福祉(高齢化)

ア 高齢夫婦のみの世帯・高齢単身世帯、世帯構成

- ・本市の高齢夫婦のみの世帯及び高齢単身世帯の割合は、いずれも上昇傾向にあります。

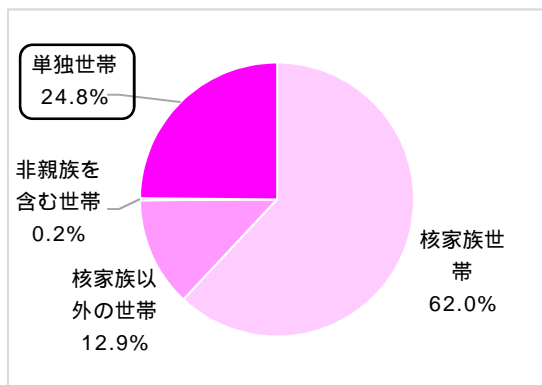
本市の高齢夫婦のみの世帯及び高齢単身世帯の推移



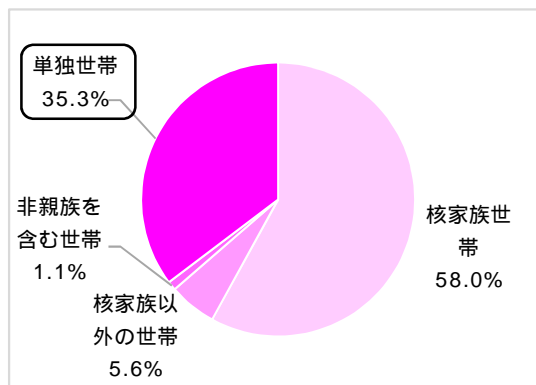
【備考】総務省「国勢調査」を基に作成

- ・本市の世帯構成をみると、単身世帯の割合が大幅に上昇しています。

本市の世帯構成(1990年)



本市の世帯構成(2020年)

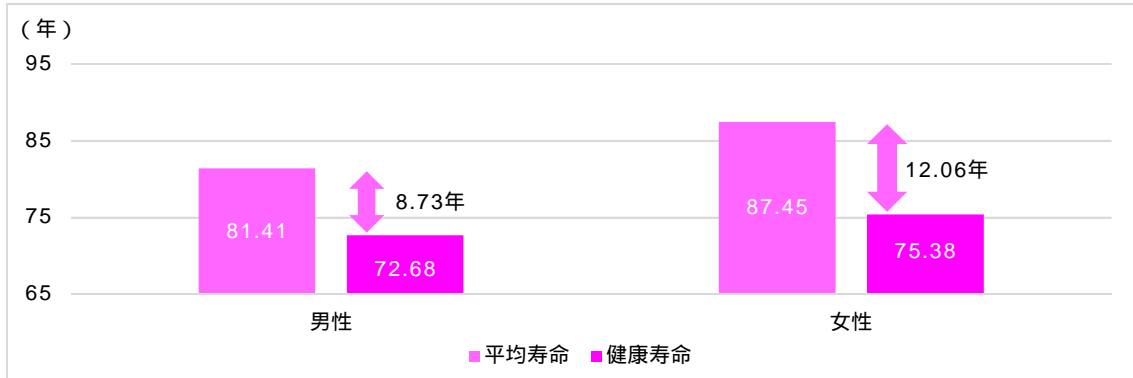


【備考】総務省「国勢調査」を基に作成

イ 平均寿命・健康寿命

- ・全国の調査によると、平均寿命と健康寿命の差は、男性 8.73 年、女性 12.06 年となっています。

平均寿命・健康寿命（2019 年）

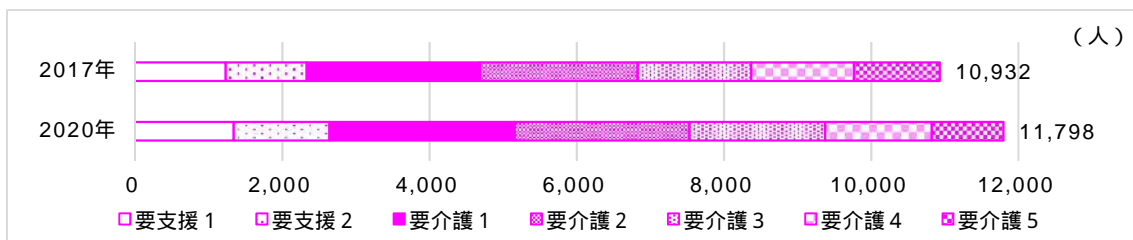


【備考】厚生労働省「生活習慣病予防のための健康情報サイト」を基に作成

ウ 要支援者・要介護者

- ・本市の要支援者及び要介護者は、増加傾向にあります。

本市の要支援者・要介護者の推移

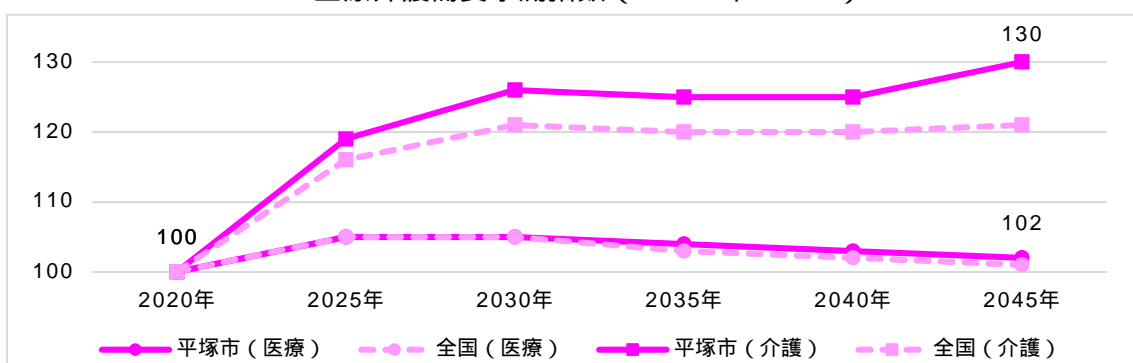


【備考】平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画 [第 8 期]）を基に作成

エ 医療介護需要予測指数

- ・本市の介護需要は、大幅な増加が見込まれています。

医療介護需要予測指数（2020 年 = 100）



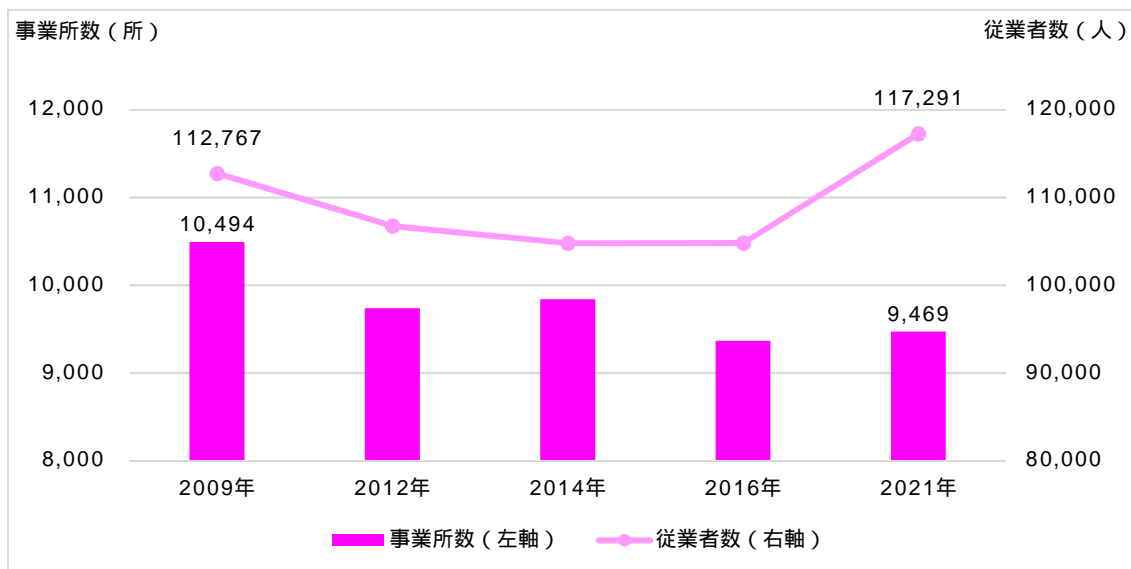
【備考】公益社団法人日本医師会「地域医療情報システム」を基に作成

(4) 産業

ア 事業所数・従業者数

- 本市の事業所数及び従業者数は、2009年比でいずれも減少傾向にありましたが、直近（2021年）は増加に転じています。

本市の事業所数及び従業者数の推移

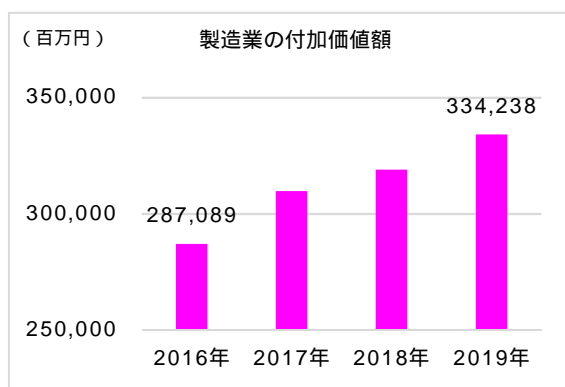


【備考】総務省「経済センサス - 活動調査」を基に作成

イ 製造業の付加価値額

- 本市の従業者数で第1位を占める製造業の付加価値額は、増加傾向にあり、化学工業、輸送用機械器具製造業が上位を占めています。

本市の製造業の付加価値額と上位5分類（2019年）



単位：百万円

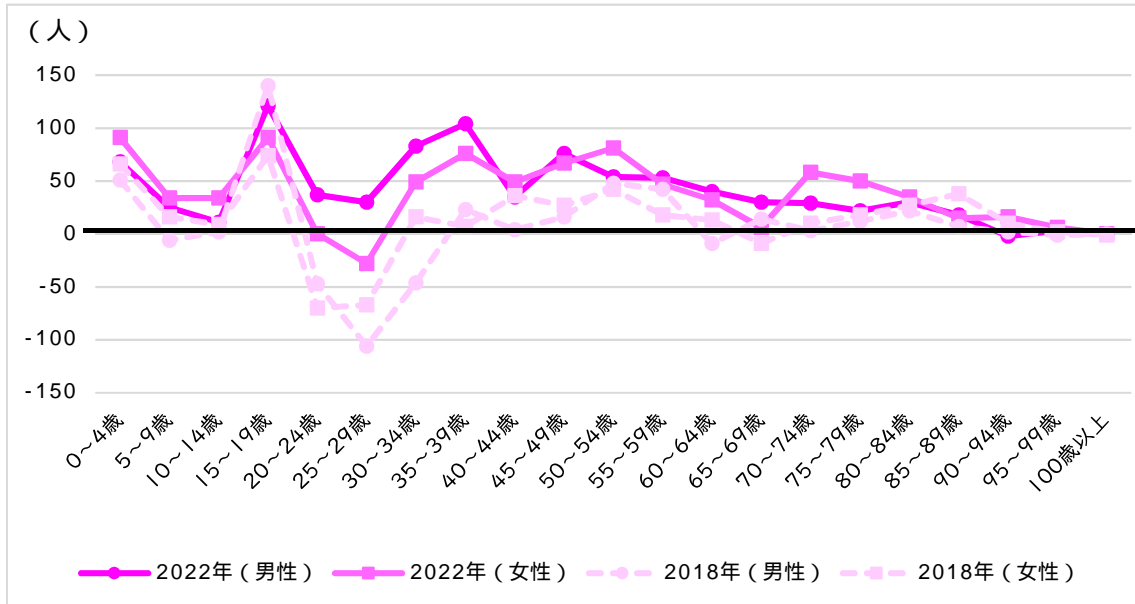
産業中分類	付加価値額
化学工業	60,825
輸送用機械器具製造業	59,539
プラスチック製品製造業	53,604
非鉄金属製造業	43,799
生産用機械器具製造業	24,935

【備考】総務省「経済センサス - 基礎調査」、総務省「経済センサス - 活動調査」、経済産業省「工業統計調査」を基に作成

ウ 年齢階級別転入超過数

- ・本市の社会動態をみると、10歳代後半の進学に伴う転入超過、20歳代の就職に伴う転出超過、30歳代以降の子育て世代や65歳以上の転入超過という特徴があります。

本市の年齢階級別転入超過数



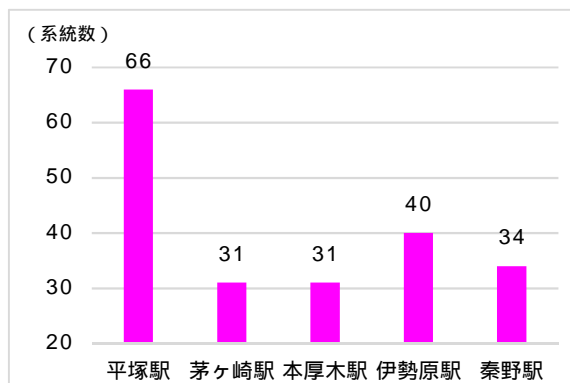
【備考】平塚市行政総務課資料を基に作成

(5) 住み続けられる地域

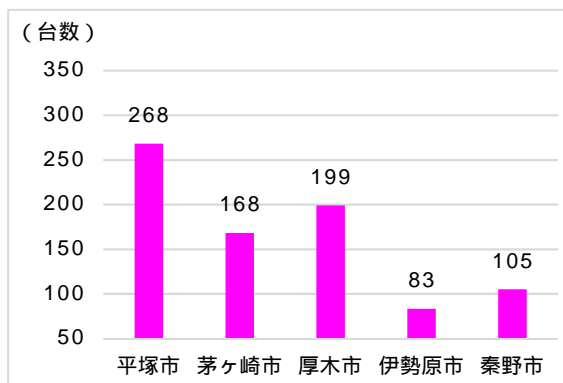
ア 交通

- ・本市は、JR東海道線平塚駅を中心に近隣市の鉄道駅等を放射状に結ぶバス路線が充実しています。
- ・本市内に複数のタクシー事業者があることから、台数が充実しています。

路線バス系統数(2019年)



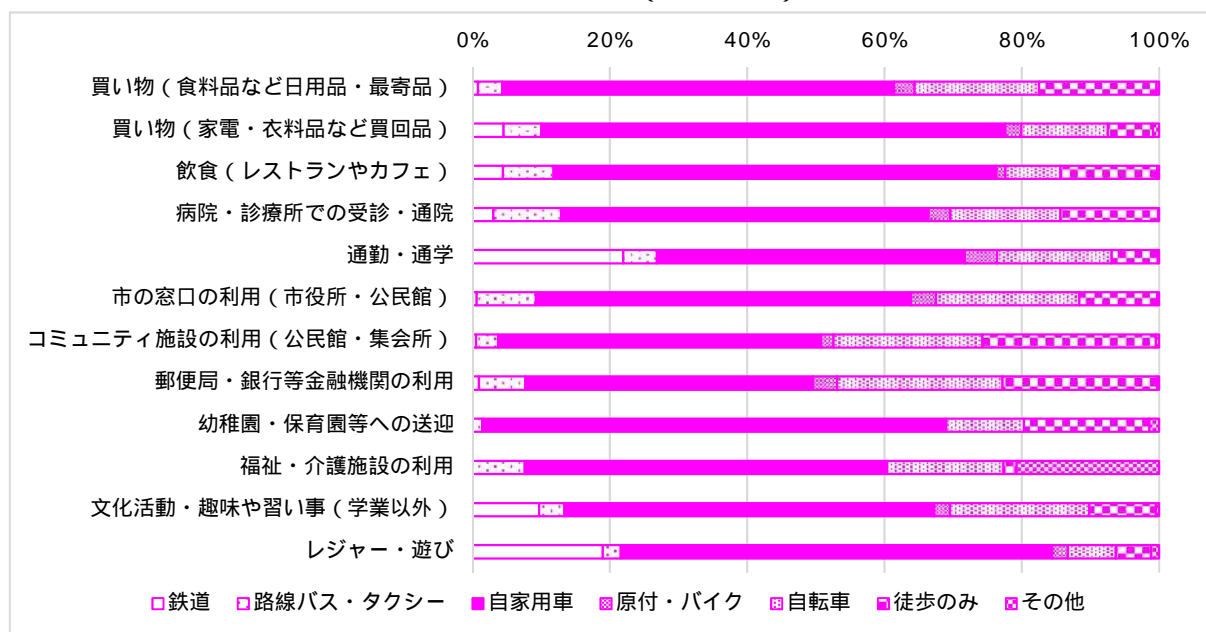
タクシー台数(2017年)



【備考】平塚市「公共交通の利用促進と地域内交通の整備に関する手引き」を基に作成

- ・市民対象のアンケート調査によると、移動手段は、全般的に自家用車が多くなっています。
- ・食料品など日用品・最寄品の買い物、コミュニティ施設や金融機関の利用においては、自転車や徒歩が比較的多くなっています。
- ・病院・診療所での受診・通院、市役所・公民館や福祉・介護施設の利用においては、路線バス・タクシーが比較的多くなっています。

市民の移動手段(2022年)

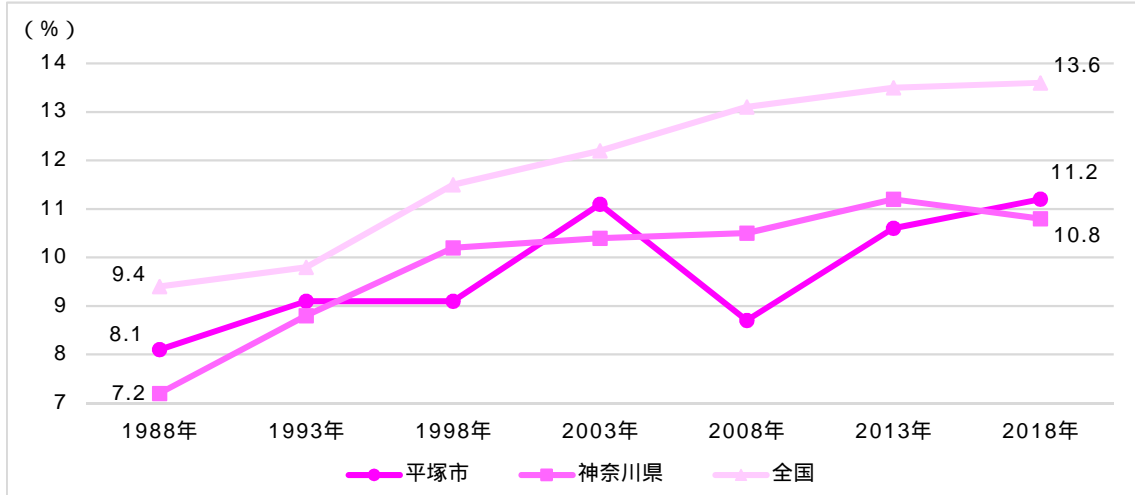


【備考】「平塚市の便利で快適なまちづくりに関する市民アンケート調査」を基に作成

イ 空家

- ・本市の空家率は、2008年以降増加傾向にあり、直近では神奈川県を超える状況となっています。

空家率の推移



【備考】総務省「住宅・土地統計調査」を基に作成